

大船渡市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画の進捗状況について

1 大船渡市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画について

(1) 策定の趣旨

全国的に少子化が進行する中、当市においても児童・生徒数が減少しており、児童・生徒の社会性の育成をはじめ、学校運営などに支障をきたすことが懸念され、こうした諸問題を解決するとともに、教育環境を整え、教育の質の向上を図るため、平成 29 年 2 月に、大船渡市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画を策定した。

(2) 計画期間

本計画は平成 29 年度から令和 8 年度までの 10 年間で、平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 か年を前期、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 か年を後期としている。

ただし、児童生徒数の将来推計、学級編制の基準等の制度改正、市の財政状況、社会情勢の変化等により、必要に応じて適宜見直しを図るとともに、地域から要望等があった場合には、本計画とは別に、柔軟かつ迅速に対応することとしている。

(3) 学校統合の考え方

① 小学校

小学校の学校規模は、原則として各学年 1 学級以上とし、小学校において、複式学級の措置が取られ、以降も継続する可能性が高い学校においては、近隣の学校との統合を検討する。

また、複式学級の措置が取られていない場合でも、一定程度の集団を形成することで教育環境に良い影響が与えられ、保護者や地域住民の理解が得られると判断される場合には、積極的に統合を進める方針としている。

② 中学校

中学校の学校規模は、原則として各学年 2 学級以上とし、生徒同士の人間環境や生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成が可能な体制を整えるよう努める方針としている。

一般に各学年で複数の学級を編成できる場合は、クラス替えが可能になることの影響も含め、以下のような効果が期待できる。

- ・社会生活への順応性の向上や多様な人間関係の構築機会の確保
- ・一定程度の人数確保が求められる部活動の種類の増と充実
- ・学級同士が切磋琢磨する環境の確保
- ・運動会・文化祭・修学旅行等の集団活動、行事の充実
- ・免許外指導をなくし、各教科の専門性に係る教職員の確保等

2 学校統合に関する進捗状況（前期：平成 29 年度～令和 3 年度）

(1) 中学校

各地区の協議の経過は、参考資料 1 のとおりである。

（単位：人、学級、％）

学校名	生徒数・学級数			生徒数・学級数の推移予測 と適正化の方向性等	統合後の 校舎	検討・実施時期		進捗状況
	H28 年度 (2016)	H40 年度 (2028)	減少率			前期	後期	
第一中	357 (12)	353 (11)	△1.1	生徒数は、ほぼ横ばいで推移。 ※昭和 63(1988)年建築の特別 教室棟以外の棟は、築後 51 年 ～54 経過。平成 6・7(1994・ 1995)年度に大規模改造事業 実施。	第一中	○		令和2年4月 統合 第一中
日頃市中	32 (3)	28 (3)	△12.5	各学年1学級が継続。平成 40 (2028)年度まで、生徒数は 30 人前後で推移。 ※築後 27 年経過。耐震改修 済。				
越喜来中	56 (3)	40 (3)	△28.6	各学年1学級が継続。生徒数は 減少が続き、40 人台で推移。 ↓ 他校との統合を検討。 ※築後 58 年経過。耐震改修 済。				
吉浜中	30 (3)	19 (3)	△36.7	各学年1学級が継続。生徒数 は、概ね 20 人台で推移。 ↓ 他校との統合を検討。 ※築後 26 年経過。				
大船渡中	219 (8)	119 (4)	△45.7	当面、各学年2学級で推移。平 成 40(2028)年度の生徒数は、 平成 29(2017)年度の半分まで 減少。 ※築後 34 年経過。	大船渡中	○		統合時期 未 定
末崎中	92 (3)	63 (3)	△31.5	各学年1学級が継続。生徒数の 減少が加速し、平成 32(2020) 年度以降、全校で 60 人台へ。 ※築後 30 年経過。大船渡中と の統合に合わせ、末崎小移転 を検討。				
赤崎中	77 (3)	43 (3)	△44.2	各学年1学級が継続。生徒数の 減少が進み、平成 40(2028)年 度に全校で 40 人台へ。	赤崎中	○		令和3年4月 統合予定 東朋中
綾里中	61 (3)	53 (3)	△13.1	各学年1学級が継続。生徒数 は、50 人をやや下回る程度で 推移。 ※築後 38 年経過。耐震改修 済。				

※「区分」欄は統合の組合せを、「生徒数・学級数」欄の（ ）内は学級数を表す。

(2) 小学校

大船渡小学校・大船渡北小学校の学校統合協議については、中学校統合協議優先のため一時休止している。

(単位：人、学級、%)

学校名	児童数・学級数			児童数・学級数の推移予測 と適正化の方向性等	統合後の 校舎	検討・実施時期		備 考
	H28 年度 (2016)	H34 年度 (2022)	増減率			前期	後期	
大船渡小	154 (6)	117 (6)	△24.0	平成 34(2022)年度の児童 数は100人以上だが、減少 率が大。 ↓ 今後の児童数の推移を注 視し、状況によっては統合 を検討。 ※昭和 53(1978)年建築の 特別教室棟と、管理・教室 棟の一部は、築後 38 年経 過。耐震改修済。	大船渡小	○	○	
	生徒数 R2 139 人							
大船渡北小	169 (7)	140 (6)	△17.2	平成 34(2022)年度には児 童数が140名まで減。 ↓ 今後の児童数の推移を注 視し、状況によっては統合 を検討。 ※築後 41 年経過。				
	生徒数 R2 118 人							
					生徒数 H28 324 人 R4 (推計) 257 人 R2 (計) 257 人			
末崎小	146 (6)	125 (6)	△14.4	当面、複式学級は見込まれ ない。 ↓ 当面、現状のまま。大船渡 中と末崎中との統合を進 め、空き校舎となる末崎中 への移転を検討。 ※築後 44～45 年経過。				
	生徒数 R2 141 人							
猪川小	320 (12)	324 (12)	1.3	児童数は横ばいで推移。 ↓ 当面、現状のまま。 ※昭和 54(1979)年建築の 管理・教室棟は37年、昭和 56(1981)年建築の教室棟 は35年経過。耐震改修不 要。				
	生徒数 R2 302 人							
日頃市小	75 (6)	62 (5)	△17.3	児童数は微減で推移し、平 成 34(2022)年度に複式学 級が1学級発生する見込 み。 ↓ 今後の児童数の推移を注 視し、状況によっては統合 を検討。 ※築後 36 年経過。	統合の組 合せにつ いて地元 と協議		○	
	生徒数 R2 71 人							

吉浜小	64 (6)	43 (4)	△32.8	複式学級が、平成 29 (2017)年度から1学級、平 成 31(2019)年度から2学級 となる見込み。 ↓ 他校との統合を検討。 ※築後 19 年経過。	統合の組 合せにつ いて地元 と協議	○	○	
生徒数 R 2 46 人								

※「区分」欄は統合の組合せを、「生徒数・学級数」欄の（ ）内は学級数を表す。